

## ガーデンツーリズム登録制度について

国土交通省都市局公園緑地・景観課

緑地環境室 国際緑地環境対策官 脇坂 隆一

### 1. ガーデンツーリズムを巡る状況

読者の皆様は女性造園技術者だと思いたすので、造園工事や公園管理などの公園・庭園関係の様々な仕事でご活躍されていることでしょうか。日本国内で考えると人口減少の時代、自治体は財政状況が厳しく、公園についても新規整備の需要が減少し、管理業務についても管理費用が年々厳しくなっている状況にあります。

しかしながら、世界全体では人口は増加しており、またアジアにおいても一人当たり GDP は、日本だけが頭打ちの中、シンガポール、韓国、台湾、中国などが著しい伸びを示しており、日本を訪れるインバウンド観光客は増加しております。これは、海外旅行をすることのできる中間所得層の増大と、LCC 等の航空運賃の低下がその要因ですが、アジア諸国に対して日本が相対的に北に位置しており、それゆえ独自の風土、歴史・文化があり、地域色のあるガーデンも多くあることが大きいと思いたす。そういう視点で日本の庭園や公園の花修景を見ると、これまでと違った可能性の広がりを感じます。

さて、今回ご紹介するガーデンツーリズムという取り組みですが、英国では 1927 年に誕生したナショナルガーデンスキーム (NGS) がよく知られています。これは、女王陛下の看護協会の基金集めのため、個人庭園を一般公開して寄付を募るもので、NGS に参加する庭園は当初の約 600 から約 3700 まで拡大しています。これら庭園を網羅した毎年発売されるガイドブック (Yellow Book) はファンも多く、掲載されることがステータスになっています。カナダでは国レベルの組織としてカナダガーデン協議会があり、ガーデンツーリズム賞の授与、ガーデンデイズの実施、ガーデンルートの PR 等によりガーデンツーリズムを推進しています。

日本においても、「北海道ガーデン街道」は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。朝の連ドラ「なつぞら」でメジャーになりましたが、かつては北海道の中で観光地としては必ずしもそうでなかった十勝地域を活性化させるため、富良野の 3 庭園と十勝の 5 庭園を連携させた観光ルート (全長約 250km) を、「北海道ガーデン街道」とネーミングした上で設定し、2009 年に協議会を設立・法人化することにより、「十勝地方」＝「ガーデン」という新たな観光ブランド化とビジネス化に成功しています。2017 年には、北海道ガーデン街道を参考に、新潟県にある大名庭園や豪農による大規模な日本庭園を結び、周囲の温泉とも連携した「にいがた庭園街道」の取組が行われています。

### 2. ガーデンツーリズム登録制度とは

国土交通省では、平成 30 年 8 月に「日本におけるガーデンツーリズムのあり方に関する検討会 (委員長 涌井史郎東京都市大学特別教授)」を設置し、3 回検討を進めてきました。会では、北海道ガーデン街道の林克彦氏、にいがた庭園街道の吉川真嗣氏をゲストスピーカーとしてお招きし、取り組まれた内容、苦勞された点についてお聞きしました。

こうして令和元年度の新規施策として「庭園間交流連携促進計画登録制度 (通称：ガーデンツーリズム登録制度)」を創設しました。この制度では、各地域の「ガーデンツーリズム」に取り組む官民の庭園管理者等や観光関係者が協議会を設置し、統一的なテーマのもと、庭園同士が「連携」した各種事業を計画として取りまとめ、国土交通省に登録申請を行います。申請された計画は、有識者審査会での審議を経て、都市局長名で登録を行います。

登録のポイントは、統一的なテーマの設定です。各地域の風土や歴史に照らした独自のものであることが求められており、その上で、観光客にとって魅力に映るテーマの設定と、そのテーマに沿った構成庭園、テーマに沿った活動が三位一体で求められます。

今回のガーデンツーリズム登録制度は、これまでに整備・管理されてきたストックである公園・庭園が連携し、新たなテーマを設定することで光を当て、エリア全体のイメージアップを図り地域活性化につなげていこうとするものであり、国土交通省が行ってきた都市緑化政策とは異なった観点からの全く新しい取組と考えています。

### 3. 登録計画とその魅力

これまでに、有識者による厳しい審査を経て8計画（図1）が登録されており、今春には新たな計画の登録が予定されています。

国土交通省では、登録ガーデンツーリズム計画の取組を支援するため、帯広市での研修会（協力：北海道ガーデン街道）や、浜松市、宮崎市、三島市での登録協議会と連携したイベントやシンポジウムを企画・共催しました。このような場を設けることで、各地域の庭園同士の連携と、ガーデン

ツーリズムに組む全国の団体同士の新たな交流が生まれ、各地域の取組のレベルが向上していくことも期待されます。また、日本のガーデンツーリズムとしてのPRにも力を入れており、【三上真史がめぐる「宮崎花旅365」(TOKYO MX テレビ)】の放送や【春のテーマ旅フェスタ(クラブツーリズム)】への出展も行ないました。

北海道から九州までの花にあふれる公園や伝統の日本庭園、さらには植物園など、とてもバラエティに富んだガーデンが活性化することで、日本全体がガーデンアイランドになる可能性も秘めております。これらのガーデンは、こどもの国(宮崎市)でヘッドガーデナーとして活躍される源香さんをはじめとした方々により、とても魅力的なものになっています。これらユニークなガーデンと、歴史・文化、温泉、ランチ、フルーツとが連携した日本のガーデンツーリズム。この春、是非現地を訪れてみませんか。

脇坂 隆一 氏  
 国土交通省都市局公園緑地・景観課  
 緑地環境室 国際緑地環境対策官  
 建設省入省後、本省勤務の他青森市都市整備部長、東北地方整備局都市調整官、東北国営公園事務所長などを歴任。

<p><b>北海道ガーデン街道</b> 北海道旭川市、富良野市、帯広市ほか</p>  <p>真鍋庭園 (帯広市)</p>	<p><b>ガーデンネックレス横浜</b> 神奈川県横浜市</p>  <p>日本大通り (横浜市)</p>	<p><b>富士・箱根・伊豆 「皇室ゆかりの庭園」ツーリズム</b> 神奈川県箱根町、静岡県沼津市、三島市ほか</p>  <p>沼津御用邸記念公園 (沼津市)</p>	<p><b>にいがた庭園街道</b> 新潟県新潟市、村上市、新発田市ほか</p>  <p>旧齋藤家別邸 (新潟市)</p>
<p><b>アメイジングガーデン・浜名湖</b> 静岡県浜松市、湖西市、袋井市、掛川市</p>  <p>はままつフラワースタック (浜松市)</p>	<p><b>宮崎花旅365</b> 宮崎県宮崎市</p>  <p>フローランド宮崎 (宮崎市)</p>	<p><b>いばらきガーデン&amp;オーチャードツーリズム</b> 茨城県水戸市、ひたちなか市、笠間市ほか</p>  <p>偕楽園公園 (水戸市)</p>	<p><b>湘南邸園文化ツーリズム</b> 神奈川県小田原市、茅ヶ崎市、大磯町ほか</p>  <p>小田原邸園交流館 清閑亭 (小田原市)</p>
<p>JAPAN GARDEN TOURISM</p> 			

## 北海道ガーデン街道のあゆみ

株式会社北海道ホテル 取締役社長  
十勝千年の森 代表取締役 林 克彦



↑北海道ガーデン街道協議会メンバー

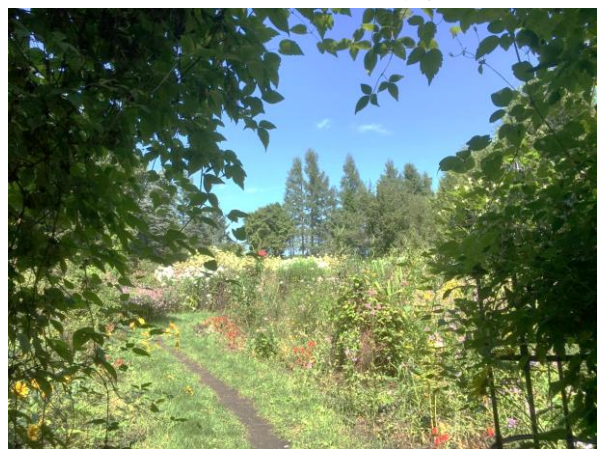
### 1. 北海道ガーデン街道紹介

北海道ガーデン街道とは、大雪（旭川・上川）と富良野、十勝エリアを南北に結ぶ全長約250キロに、北海道の代表的な美しい8つのガーデンが点在する観光街道で日本最大級。いずれのガーデンも北海道特有の気候や景観をいかして個性にあふれ、自然の風景や山並みを楽しめるとともに、豊かな食を堪能できます。ガーデンは、北から①上川町の大雪森のガーデン（2015年オープン）②旭川市の上野ファーム（1989年）③富良野市の風のガーデン（2009年オープン）④十勝清水町の十勝千年の森（2007年オープン）⑤帯広市の真鍋庭園（1960年代スタート）⑥同市の紫竹ガーデン（1980年代スタート）⑦幕別町の十勝ヒルズ（2009年オープン）⑧中札内村の六花の森（2007年オープン）、それぞれ特徴が異なるガーデンが連携して2009年に北海道ガーデン街道協議会が設立されました。

### 2. ガーデン街道になるきっかけ

私が運営する十勝千年の森は2007年にオープンしました。世界的なガーデンデザイナー、ダン・ピアソンが設計する「アースガーデン」「メドーガーデン」を持つ、雄大な十勝の風景の中に包み込まれるようなガーデンが展開されています。その頃十勝には5つの観光ガーデンがありま

したが、全国での知名度はありませんでした。その認識を変えたのは2008年全国放映された倉本聰氏脚本のドラマ「風のガーデン」が公開され、庭園デザインを手がけた、「上野ファーム」上野由紀氏がガーデン雑誌の表紙を飾り、翌年から富良野と旭川のガーデンへ観光客が増加していったことです。同時期にガーデンをオープンさせたのですが、風のガーデンには約20万人、千年の森は約2万人のお客様が来場。メディアの力の大きさに気付かされました。十勝はそれまで、札幌や釧路とつなぐ観光ばかり考えていましたが、この素晴らしい景色と美味しい食べ物を堪能しながら観光で移動するなら、旭川と十勝200kmの距離は全く問題なく移動できる、というある女性編集者の言った言葉に感銘を受け、その時点で点から線へ結びつけ、各施設が連携をして全国へ発信すれば、この街道や景観をブランド化できると直感しました。例えばドイツの「ロマンティック街道」のように、市町村名など土地の名前は知らなくとも、綺麗な風景と城巡りを指し観光街道の名前になっているように、「北海道ガーデン街道」を北海道のガーデン巡りとして認識し、地域全体をブランド化したいと考えたのです。



↑紫竹ガーデン

### 3. 具体的に動き結果が出る

私はまずガーデン街道の連携を模索し始めまし

た。最初に運営組織を作るべく十勝と富良野の観光協会を結びつけ、団体の運営を担って貰おうと考えましたが、上手くいきませんでした。地域の税金や会費で運営されているため、他地域の営業宣伝は難しいという答えだったのです。今では行政区域を超えた連携や共同営業が普通に行われていますが、10年前はその壁が厚かったのです。これは民間運営するしかないと覚悟しました。7つのガーデンを説得し2009年10月に協議会を設立しました。当時3年間で1,000万円の補助金制度があり、それを活用して7ガーデン中4つを回るとお得な共通チケットを販売します。これが旅行代理店に好評で、初年度8700枚・2年目14,600枚を超える販売を記録しました。来訪者が増えると、各ガーデンと観光関連企業や地域の観光協会と繋がり、地域間交流が飛躍的に活性化していきました。2009年夕張～占冠間の高速道路が開通し、新千歳空港から十勝まで2時間。北海道の移動としては気軽に行ける距離になったことも追風になりました。結果として、観光イメージの低い十勝を北海道ガーデン街道のネーミングと他地域との連携が、イメージ良い地域にイノベーション出来たのです。

#### 4. 十勝の地域と人の魅力

ガーデン街道に訪れる観光客は50～70代の女性が圧倒的に多く、ツアーで訪れた数年後に少人数の個人旅行者としてリピーターとなってくれます。観光客は「見る・体験する・食べる・泊まる」の目的を持って旅をしますが、それまではターゲット層が絞られず、事業主や行政がバラバラに営業活動をしていました。北海道ガーデン街道は協議会を通じ、事業主・観光協会・ホテル・行政が一つになり、それぞれの弱みや強みを補いながらブランディングやマーケティングを核として全体でマネジメントを継続しています。

協議会の運営は、多くが30～40代です。SNSなどフル活用し、スピード感ある運営と意思決定を心がけています。運営に女性が多く参加し、ロゴマークや印刷物にも女性の視点を入れる

ようにしています。HPの充実やPR含め発信の仕方はとても重要だと考えています。そもそも十勝のガーデンはまとまりがあることも広域連携の理由の一つです。紫竹ガーデン・紫竹昭葉さんを中心に、ガーデンアイランド北海道（北海道を庭園の島へ）の集まりがあり各地のガーデナー同士の繋がりができました。

またガーデン街道の風景は大雪山の山並みを望み、田園風景を通り、牧場やサイロを見ながら牧歌的な風景を通してガーデンを巡ります。これらも北海道ガーデン街道を構成する重要な要素となっています。



↑十勝千年の森を案内する  
ヘッドガーデナー新谷みどり氏

#### 5. これからを見据えて

この10年の間に、十勝千年の森は権威ある「イギリスガーデンデザイナーズ協会」から世界で最も美しい庭園として認定されました。世界のガーデナーが千年のヘッドガーデナー新谷氏が管理するガーデンの素晴らしさに惚れます。2015年には8つ目となる「大雪森のガーデン」がオープン。2012、2015年は「北海道ガーデンショー」がそれぞれ千年の森と大雪森のガーデンで開催し、アジアから20万人以上のガーデンファンを集めました。昨年は十勝ヒルズの植栽設計を手掛けた左藤末季氏と柏倉一統氏（木野花園計画・帯広）がチェルシーフラワーショーで金賞を受賞する快挙を達成しました。私が思い描いた、北海道ガーデン街道を通して人材が育ち、世界にチャレンジするという実績ができてきたのです。

今後も、海外からの訪問客が増えていきます。

そのために多言語でユーザーフレンドリーな HP の整備は必須。バスやタクシーと連携し、わかりやすい料金設定で目的地へ行けるシステム作りも必要です。国交省のガーデンツーリズム登録制度に認定された、それぞれの団体が連携してホスピタリティを重視の取り組みを学び、実現してゆくことが重要です。北海道ガーデン街道の終わりのなき挑戦とガーデンツーリズムへの貢献をこれからも続けていきたいと思っています。



↑紫竹ガーデン



林 克彦氏

1975 年、北海道帯広市生まれ。大学卒業後にカナダ留学ののち北海道に戻り、様々な職種を経験。2009 年には「北海道ガーデン街道」を立ち上げる。2017 年に株式会社北海道ホテル取締役社長に就任し、北海道ガーデン街道協議会、とち帯広ホテル旅館組合会長、帯広観光コンベンション協会副会長も務める。

プロフィール写真以外の写真は内倉眞裕美氏が撮影

## 北海道を庭園の島に

ガーデンアイランド北海道理事長・ブレインズ代表  
・恵庭花のまちづくり推進会議会長 内倉眞裕美

### 1. 自己紹介から始めます

1988 年新興住宅街恵庭市恵み野に居を構えて「子ども達のふる里」を作ろうと、活動してきた中に花の街づくりがあり、30 年経過した。オープンガーデンや、市民主導の花のまちづくりの先駆けとなった恵庭では、2020 年秋プレオープンする花の拠点を作っている。私が関わってきた活動を紹介しながら、その軌跡を追ってみたい。

### 2. 恵庭花のまちづくりのあゆみ

1991 年恵庭市市政施行 20 周年を記念し、花のあるまちづくりをテーマに「えにわ花と暮らし展」というイベントが開催され、(現在も継続中) 恵み野が花で溢れるようになるきっかけになった。その講演会では、ランドスケープアーキテクトの杉尾邦江さんがクライストチャーチの町並みや公共の場を自分たちの手で花を飾る女性たちが紹介され、それに刺激された恵庭市職員と民間 13 名で現地を視察し、その後 100 回に及ぶ報告

会が行われた。私は 1992 年から恵み野フラワーガーデンコンテストを開催し、同コンテストによって恵み野地区は個人のオープンガーデンが盛んとなり 1995 年「花づくり愛好会」が「花のまちづくりコンクール」で建設大臣賞受賞、1997 年に全国誌ミセスに 16 ページの特集が組まれた。この他、テレビや新聞、雑誌で取り上げられることが多くなり、全国から花の愛好者が押し寄せた。ガーデニングという言葉が定着していなかった頃、行政や町内会、商店会との軋轢が生じた時期でもある。しかし小さな成功を一つずつ重ね、現在は、学校・町内会、商店会全体を束ねる組織が動きだし、町ぐるみで花の町を作っている。恵庭には、1961 年花いっぱい文化協会が設立。苗の生産から供給を担い、学校や公共の花壇が普及していく。加えて花苗の一大生産地でもあるなど、花の供給システムが何処よりも早く出来ていたことも、花の町恵庭ができる要素となった。

### 3. プレインス

～オープンガーデンオブ北海道～



恵み野で活動しながら、道内で志を共にする仲間と出会った。しかし、オープンガーデンは道内各地で展開されていたものの、個人の点でしかなかった。花を楽しむ仲間情報交換や勉強会を重ねていけないか？全国各地から北海道の花仲間を目指し、花旅する人のガイドブックにならないかと、2001年「オープンガーデンオブ北海道」を発行する。

プレインスの取り組みは、道内のオープンガーデンを線で結び、花旅の定番となった。全国的にも大きなムーブメントとなり、広がっていく時期も重なり、恵み野地区で経験してきた住宅地に観光バスが来ることに対する非難やバッシングは少なくなった。経験を経て、解決策を話し合えるようになったのだ。この頃から、道内各地で本格的な観光庭園の造成が始まっていった

#### ガーデンアイランド北海道 コンセプト



### 4. ガーデンアイランド北海道 (GIH)

ガーデンアイランド北海道（以下-GIH）とは「美しい庭園の島・北海道」を目指す道民運動です。NPO 法人 GIH の呼びかけに賛同した全道の約 100 カ所の公園や庭園・景勝地が「登録会場」となり、北海道の花の魅力、公園・庭園の魅力を全国・世界にアピールしている。

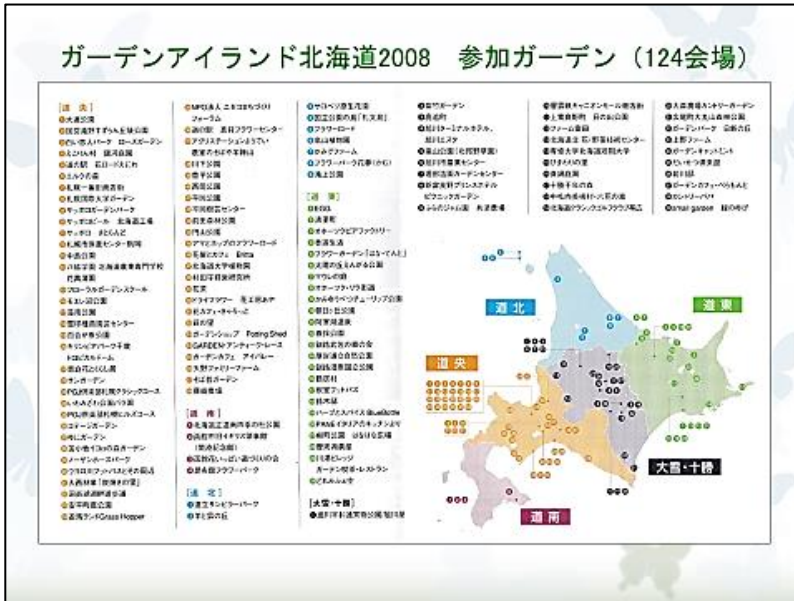
2003年11月28日、北海道ガーデンを考える集いを札幌エルプラザの大ホールで宣言。5年後の2008年に「北海道ガーデン博（仮称）」の開催を決議。その後イベント名を「ガーデンアイランド 2008」と命名。

当初、2008年に全国都市緑化フェアの誘致が出来ないか？の思いから誘致に向けて造園・園芸関係者が動き出したが、花博の開催は行政側の判断で見送られる。その後、業界の有志が集まり、民間中心で独自のイベント開催の検討を始めた。

北海道は広い、理解を求めるには苦労も伴った。2004年から2007年の3年を掛けて、北海道ガーデン博を考える集いは北海道の函館から釧路、洞爺湖を含めた8会場でリレーシンポジウムを開催し各会場に理解を求めた。



GIHは民間団体で有志による活動で資金は無い。事務局・理事者も手弁当で活動した。計画しているイベントに対し、事情を知らない地方の各会場からは札幌や千歳だけで大きなイベントが集中することの不満も聞こえたが、それも一人一人が夢に向かい自己資金で行われた事業なので致し方ない。自分たちのやりたいことは自分たちが企



画し実行していくしかないのだ。

2008年の本イベントは参加ガーデン124会場、10か所のコア会場と各会場がサテライト会場となり、全道的なイベントとなった。

GIH2008の主なイベントは以下の通り。

- オープニングイベントは北海道知事が宣言
- 洞爺湖サミットの装飾と提案「花いっぱいでお出迎えプロジェクト」と連携。
- 各会場イベント
- 千歳レラの奥で千歳マルシェの開催。
- 札幌駅前の装飾と大通り会場に作ったホワイトガーデン

### 5. GIH2008 を機に生まれたもの

「北海道を庭園の島に」の思いは、着実に北海道のガーデンの底上げに繋がった。

◆2008年前後に苫小牧の「イコロの森」、帯広の「十勝千年の森」恵庭の「銀河庭園」上川の「大雪森のガーデン」などの大型ガーデンが誕生する。

◆2009年十勝ではガーデンが一体となって「北海道ガーデン街道」が誕生し、2019年ガーデンツーリズム登録となる。

◆2015年大雪森のガーデンをメイン会場にした「北海道ガーデンショー」の開催

### 6. 北海道が「庭園の島」に

2015年3月カナダのトロントで「国際ガーデンツーリズムネットワーク」が開催した「国際会議」に於いて「北海道ガーデンショー」「北海道ガーデンアイランド北海道」「北海道ガーデン街道」の3つの取り組みが高く評価され国際会議で受賞することが出来た。ヨーロッパ諸国からは、今まで日本の庭园といえば「日本庭園」、北海道に代表される庭園の評価は低かったが今回の受賞で、見直されたことになる。まだまだアジア諸国の

人以外の見学者は少ないが、今後北海道のガーデンツーリズムを構築し、日本全体のガーデンツーリズムに繋がりたい。ヨーロッパ諸国もシェアに入れた「ガーデンアイランド北海道」の取り組みが文字通り「庭園の島」となるべく関係団体一丸となって取り組んでいきたい。



### 7. 2020年10月恵庭に花の拠点（仮称）が出来る

これまで恵庭の花のまちづくりは、市民主体で行なわれてきた。2018年、恵庭市は市民活動に後押しされる形で「花の拠点」造成に着手した。2020年10月「えにわ道と川の駅」を拡張

### 最近の北海道のガーデンムーブメント

年	出来事	この年に開園したガーデン
昭和51年(1976)	・富良野のラベンダーが国鉄のカレンダーに掲載され、以後、カメラマンが頻りに富良野を訪れるようになる。	
昭和60年(1985)	・百合が原公園で'86さっぽろ花と緑の博覧会が開催	
平成5年(1993)	・花フェスタ札幌始まる。	
平成12年(2000)		紫竹ガーデン 滝野公園カントリーガーデン
平成13年(2001)	・北海道のオープンガーデンを広めようと「Brans」(種まく私たち)が活動を開始	上野ファーム(公開始まる) ゆにガーデン
平成15年(2003)	・「北海道を美しい庭園の島にしよう」を合い言葉に道民運動組織「ガーデンアイランド北海道」誕生 ・札幌近郊花ネットワーク協議会が、「花めぐりスタンプラリー」を開催(以後2007年まで)	
平成18年(2006)		えこりん村
平成19年(2007)		ノースパーク K's Garden 六花の森
平成20年(2008)	・全道を舞台に、花と緑のイベント「ガーデンアイランド北海道2008」が行われる。 ・テレビドラマ「風のガーデン」放映	イコロの森 十勝千年の森
平成21年(2009)	・北海道ガーデン街道が誕生 ・第1回北海道ガーデンショー開催	風のガーデン
平成26年(2014)		大雪森のガーデン 旭川北彩都
平成27年(2015)	・北海道ガーデンショー(第2回)開催	

また  
2022年  
北海道は  
恵庭市を  
中心会場  
として全  
国都市緑  
化フェア  
開催を目  
指し誘致  
活動をし  
ている。  
多くの  
人に新し  
い「花の  
まち・恵  
庭」を訪  
れてほし  
い。

し、高野ランドスケープが設計する北海道の有名  
ガーデナー達8名が造る6つのガーデンと市民が  
造る「暮らしの庭」がお目見えする。「花の拠  
点」(仮称)には「センターハウス」と「道の  
駅」の機能と野菜直売所「かのな」が併設。  
2023年には100名の宿泊施設も完成する。



恵庭市は北海道の玄関口千歳の隣にあり、「花  
の拠点」は、北海道で最も交通量の多い国道36  
号線に面している。ここ「花の拠点」は北海道の  
ガーデンを巡る最初の窓口としての役割を果たす  
と期待している。

私の原点は「子供達のふるさと」を作ろうと始  
めた市民活動だった。無我夢中で活動してきた3  
人の子持ちの主婦の取り組みは、恵み野だけにと  
どまらず。恵庭市から全道の動きに波及してい  
ったと思う。後継者が叫ばれる中であって、まち  
の中には着実に理解者が増え意識が変わり若い  
人が動き出した。まだ私の果たす役割を残しな  
がらも心強い。今後北海道の景観が世界的にも  
評価され、花や緑が暮らしの中に溶け込んで  
行く姿を想像すると、とても楽しみである。



カナダトロントでの表彰式に臨む着物姿の内倉さん

## 北海道のガーデンタイプ

株式会社愛植物設計事務所 代表取締役会長 山本 紀久

世界中どこの庭園でも必ず施主がいて、庭をつくる動機があります。日本でいえば、京都の庭園では、お金がありながらどこにも行けない大名がつくる、金と庭師の技が凝縮された「大名庭園」。神聖を保つためのしつらえともなる神社仏閣がつくる「社寺庭園」。また、民間ではそれぞれの粋を凝らした「個人庭園」や「町屋の庭」などがあり、それぞれに全く趣が違います。これは江戸から現在に続く東京の庭でも同じように多様なタイプの庭があります。

そんな目で北海道の庭を見ると、京都や東京とは全く違ったタイプの庭が多いことが解ります。まず大きく違うのが、歴史的背景から、権力とお金によって周囲に誇示する、大名庭園的なものが無いことで、その多くは、雪深く、春を待ち焦がれる人々の、花やみどりに対する想いが、それぞれの身近な空間で多様に花開いたものが、大半の庭づくりの原点になっているからでしょう。

その北海道の庭づくりの原点となっている‘個人庭園’は、夏期冷涼の北海道ならではの魅力にはまった新旧様々な人々によって、温暖気候下では難しい、宿根草をふんだんに使った‘英国式庭園’を参考にしながらも、北海道ならではの新たな‘北海道庭園’に進化しつつあります。その過程で、その一部は観光の一環として、有料の「観光庭園」になり、それらの技を駆使した、自治体が管理する「公共庭園」、民間のホテルやマンション、ショップに併設された「施設庭園」も多くみられるようになりました。

さらに忘れてならないのは、農業立県でもある北海道ならではの「農家の庭」です。

そのモデルが英国庭園です。英国の農家は春から秋にかけての時期は農作業にかかりきりで、本来ならば一番花やみどりが美しい時期に外に出ることが出来ません。そこで、広大な自分の敷地の中に池を掘り、木を植え、好きな草花やバラなど

で、身近に楽しめる自前の庭園を造ります。それらの庭は、オープンガーデンとして公開されるものもありますが、現在われわれが英国の庭園巡りの対象になっている名園の大半は、持ちきれなくなった農家の庭をナショナルトラストが引き取り、手を加え、有料化することによって維持されているものです。

これは、北海道の農家も同じことですから、もっとそんな庭園が増えてもいいと思いますが、私の知る限りでは極めて少ないように思えます。このタイプの庭は、動機という点では、最も英国庭園に近い物でしょう。

以上のように北海道の庭を紹介するのであれば、例えば以下のようなタイプに分けて、その見どころを紹介するのが親切かもしれません。

「観光庭園」「公共庭園」「施設庭園」「個人庭園」「農家の庭」…などなど

例えば主な庭園を分けるとすれば・・・

「**観光庭園**」：大雪森のガーデン、  
風のガーデン、紫竹ガーデン、  
十勝ヒルズ、いころの森など

「**公共庭園**」：四季彩都ガーデンほか

「**施設庭園**」：真鍋庭園（苗圃併設型）、  
六花の森（六花亭の宣伝）、  
その他ホテル、マンション、  
商業施設併設の庭園など

「**個人庭園**」：主としてイエローブック掲載の庭

「**農家の庭**」：上野ファーム（代々の農家）、  
押谷ファームガーデン  
（新規就農農家）など

山本 紀久氏

社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会 参与、  
株式会社愛植物設計事務所 会長  
東京農業大学造園学科卒。(株)愛植物設計事務所設立、  
代表として経営にあたる傍ら、東京農業大学非常勤講師、  
同客員教授、などを歴任。東京ディズニーランド、  
沖縄海洋博ドリームセンター、国営ひたち海浜公園砂丘  
丘ガーデン他、数多くの植栽設計を手がける。著書に  
『造園植栽術』、『アーバンガーデニング』ほか多数。

## アグリツーリズム in よいちワインの旅へのお誘い

NPO 法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト 坂本純科

### ワインの町、余市を巡る旅が人気急上昇です。

この地域は、道内でも温暖で果樹栽培に適した気候であること、高いブドウ栽培技術を持っていること、特区を取得して小さな規模でも醸造ができるようになったことが理由で、50件を超えるブドウ農家があります。

ワインブドウは糖度だけでなく酸味が重要です。温暖化が原因で本州のブドウは酸が抜けるようになったため、北海道がワインブドウ栽培の適地として注目されるようになりました。その結果、この10年以内に、大小さまざまな醸造所が生まれました。ヨーロッパのワイン先進地で修業を重ね、評価を受けてきた腕のいい醸造家が何人もいるのです。全国から注目を集めている「ドメーヌ・タカヒコ」のワインは、最近コペンハーゲンのレストラン「ノーマ (noma)」に採用されました。「世界のベストレストラン」に輝くレストランで、余市のワインが世界にデビューしたことは、日本のワイン界を沸かせました。

大手企業の経営する大規模ワイナリーが次々と開業する一方で、脱サラして移住起業した登醸造のようなマイクロワイナリーもあります。小西さんは東京勤務時代に自宅のベランダで栽培したブドウがきっかけで、余市町で就農。古い住宅の一部をリフォームした小さな加工所では、電気を使わず全て手作業で丁寧にナチュラルワインを作っています。

この辺りの特徴は丘陵地の連続する景観。遠くに海を臨みながら、眼下に広がるヴィンヤードの美しさはヨーロッパのそれに似ていると評されます。その眺望のよさや、海山の味覚、ニッカウイスキーや縄文の歴史などツーリズムの資源には事欠きません。かつてはニッカー豪華主義で短期滞在だったツーリズムですが、最近はワインをテーマにあちこち巡りながら滞在するスタイルの観光に町も力を注いでいます。

「ワインだけでなく畑にも興味がある、農家の話も聞きたい」という人は増えているものの、家族経営の農家やワイナリーの悩みは観光客の対応に手が回らないこと。それでも年に一度だけは農園を開放してお客様をお迎えし、自分たちも楽しもうというイベント「La fete」が秋に開催されます。昨年も1000枚のチケットが2日で売り切れという人気ぶりでした。関東、関西からも大勢の方が来られてマイクロバスや徒歩でワイナリーを巡り、食事とワインを楽しむイベントとして定着しています。

エコビレッジでは2012年にこの余市町に拠点を建設しました。自給用・教材用に作る野菜や果物とは別に3反のワインブドウを育て、登醸造でスパークリングワインを製造しています。特別な技術や高い品質を目指してというよりも、子どもから修学旅行の中高生、外国人ボランティアなど多様な人たちが作業に関わる中で生まれた「たくさん笑顔を集めたワイン」としてPRしています。

エコハウスやタイニーハウス、グランピングなどに宿泊しながら、収穫した野菜で料理をしたり、野草でお茶を作ったり、薪を割ったりして農的暮らしを楽しんでほしい。希望者には、ワインブドウの管理作業やワイナリー訪問なども。北海道にお越しの際は、ぜひ今、一番ホットな余市に足を伸ばしてください。



写真は「北の女性☆元気・活躍・応援サイト」から流用 [https://l-north.jp/katsuyaku/message/sakamoto\\_junka/](https://l-north.jp/katsuyaku/message/sakamoto_junka/)